

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                          |            |           |
|---------|--------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号   | 4270104617               |            |           |
| 法人名     | 有限会社 東雲                  |            |           |
| 事業所名    | 有限会社 東雲 グループホームつつじが丘しのため |            |           |
| 所在地     | 長崎市つつじが丘4丁目15番1号         |            |           |
| 自己評価作成日 | 平成22年12月15日              | 評価結果市町村受理日 | 平成23年4月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構      |
| 所在地   | 長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階 |
| 訪問調査日 | 平成23年2月26日              |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街にあるホームの中で利用者のペースを大切に、明るく、楽しく、笑いのある生活環境を提供できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の一角にホームは位置している。ホーム設立時より地域住民との連携を図り現在も地域密着型ホームとして周囲からの協力を得やすい関係が継続している。家族も介護に積極的に関わってもらうために、運営推進会議出席の家族を毎回変えている。地域、行政、家族と利用者の生活について多くの見守りの目があることは本事業所の優れた点といえる。医療面では、職員が不安なく勤務できるよう協力医とのバックアップ体制が十分に取られている。また職員は認知症について様々な事例、症状、適切な介助方法を学ぶために外部研修にも多く参加している。理念の基にもなる「今まで当たり前だった高齢者を敬う心」で利用者として日常を過ごしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 66 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  |    |   |                       |   |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|-------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                   |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I.理念に基づく運営</b> |     |  |  |   |                   |
| 1                 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                             | 職員は、毎朝理念を申し送り時に唱和し日々の介護の中で確認し合い、入居者の思いに添えるよう努力するとともに、地域に密着した介護の実践に取り組んでいる。 | 毎朝申し送り時に理念を唱和している。理念の中の文言である「その人らしく安心して楽しい生活」に重点を置き、その人にとっての日常生活が出来るように検討し実践している。近隣との交流もしながら実践につなげている。            |                   |
| 2                 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                             | 自治会の夏祭りなど、清掃活動、近所のスーパーで買い物などをして日常的に交流している。                                 | 自治会に加入している。回覧板やゴミステーションの清掃当番に職員は参加しており、自治会の夏祭りにも参加している。近所のスーパーで買い物することで日常的に交流ができています。事業所には歌のボランティアが来るなど交流が図られている。 |                   |
| 3                 |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                           | 日々、職員と入居者が近所の方々と接する際に理解や支援の方法を話すこと有り。                                      |   |                   |
| 4                 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている        | ホームでの生活や事故報告などを行いサービスの向上に活かすように努めている。                                      | 2か月に1度規定のメンバーで行われている。家族の出席は当番制で、専門家や地域との話し合いの場面に役立てている。行事報告、研修、外部評価等の報告がされている。インターフォン設置の提案があり、早速改善に向け設置された例がある。   |                   |
| 5                 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                   | 市主催の研修会への参加、入居の問い合わせ、運営推進会議に出席などで協力関係を築くよう取り組んでいる。                         | 生活福祉課の担当者に相談や助言を得ている。利用者の認定更新時にも市町村担当者と密に連絡を取り合っている。  |                   |
| 6                 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日々、職員のさりげない言葉などが、利用者には抑圧感をもたせてないか、気づいた点は職員間で注意をしあっている。                     | 日常業務の中で気づいた言葉遣いや、態度について管理者と職員同士でその都度話し合うようにしている。外出支援で職員数が減っている時を除き、玄関の施錠は夜間のみである。現在、安全面の配慮から家族の同意を得てベッド柵を利用している。  |                   |
| 7                 |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている        | 外部研修を受講する機会を設け、職員と情報を共有し防止に努めている。  |   |                   |

グループホームつつしが丘しのめ

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |  |
|----|-----|--|--|---|--|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 管理者が学ぶ機会を持ち、日々、職員に伝えている。   |   |  |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約書、重要事項説明書の内容について入居前に直接説明し、その場でまたは後日質問に答え理解・納得していただくように努めている。         |   |  |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 面会時など話し合う機会を設けており意見や要望について職員間で話し合い反映させている。                             | 各職員は要望ノートを持っており、利用者や面会時家族からの意見や要望をすぐ書き留め、職員間で話し合い対応できるようにしている。家族からの医療面や今後の不安などその都度傾聴し、管理者からの説明している。 |  |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 代表者も管理者も同じフロアで業務を行っており話し合う機会も多く職員の意見を業務に反映できるように努めている。                 | 申し送りを利用して、職員の要望や意見はその都度聞いて反映させている。利用者との外出企画提案やシフト調整など反映されている。職員会議が開催されていないので、全員で発言する場面がない。          | 職員会議など全員で話し合う場を設け、他の職員の提案や意見など全員で周知することは、職員の不安払拭、更には職員の定着にもつながると期待できるため、検討が望まれる。 |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 2ヶ月に一度有給休暇を取得させたり、年に一度給与の見直しをするなど職員がやりがいを感じる事ができるように、職場環境・条件の整備に努めている。 |   |  |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 新人研修、年に数回外部研修の機会を設け介護に活かせるように努めている。                                    |   |  |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者と意見交換などを行い、サービスの質の向上に努めている。   |   |  |

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |   |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前の面接で生活状態を把握するように努め、また体験入所をとおして本人の安心を確保するための関係作りに努めている。                     |   |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 入居前後に話を聞く機会を設け日ごろの暮らしぶりを伝え、家族の要望に耳を傾けるように努めている。                              |   |                   |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 必要としている支援を見極め対応するように努めている。   |   |                   |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 毎日の生活をとおしできることは職員と共に<br>行い良い人間関係を構築できるように努めており、また人生の先輩として分からないことを教えていただいている。 |   |                   |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 事あるたびに情報交換を行い絆が深まるように努めている。  |   |                   |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 家族の経営する美容院にお連れしたり、神父様の訪問があったり、友人、親戚と連絡が取れるように支援に努めている。                       | 利用者の状況に応じて、家族と連絡しながら外泊や外食の支援をしている。家族や友人、神父様の訪問、家族へ毎日電話する利用者など交流支援をしている。 |                   |
| 21                         |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                  | 常に1～2人の職員が見守りをしており、食事、レクレーションなどでの利用者間の交流に気を配っている。                            |   |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 退去先への情報提供や面会(差し入れ)を通じ相談や支援に努めている。  |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |   |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 日々の生活の中で声をかけたり、一緒に活動する中で把握に努めている。意思疎通が困難な方には、表情または家族、関係者から情報を得るように努めている。 | 失語症、難聴の方は日々の生活する中で表情、動作などから把握に努めている。トイレ介助や食事中などに、本心を言われるのを聞き、希望や意向の把握に努めている。            |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 本人、家族、関係者に生活歴などを随時間きながら経過などの把握に努めている。                                    |   |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 健康管理、1日の過ごし方を観察し現状の把握に努めている。   |   |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の希望を聞きそれをもとにコンファレンスで職員間(利用者が参加することもある)で話し合い介護計画を作成している。             | 見直しは3ヶ月に1度行っている。担当者を中心に他の職員からは事前に意見を聴取し、家族の要望を踏まえて、意思疎通の可能な利用者は参加して意見交換がなされ介護計画を作成している。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 施設介護記録、健康管理表に実践・結果などを記録し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。                 |   |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 利用者の希望に応じドライブ、外食、買い物にお連れしている。  |   |                   |

グループホームつつしが丘しのめ

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域の行事、夏祭り、市民清掃などに参加したり、同じ町内の美容院に来ていただいている。                             |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 本人、家族の希望に応じている。  | かかりつけ医の継続は家族の通院介助のもと行われている。協力医は緊急時24時間に対応しており、電話で指示を受ける体制も構築している。受診内容は事業所、家族の双方で報告し合い情報を共有している。                 |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 日々、看護職に連絡、相談できる体制があり適切な受診や看護を受けられるように支援している。                           |   |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 必要な情報を医療機関に提供し、また頻繁に利用者を見まい、医療従事者と情報交換を行っている。                          |   |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | ご家族に入所時、または状態の変化時などに終末期のあり方を説明し家族や本人の希望に配慮しながら協力医療機関の支援を得て取り組むよう努めている。 | 入居説明時に終末期・看取りについて説明をしている。状況に応じて医師、家族と話し合いを行い同意を得ている。協力医と訪問看護との連携が取られており、看取りの事例がある。管理者らが中心となり看取り体制について職員を指導している。 |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 緊急時の対応マニュアルを掲示している。  |   |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 消防署の協力のもと定期的に非難、通報訓練を行い。近隣の方にも緊急時の援助をお願いしている。                          | 年2回消防訓練を行っている。夜間想定、避難経路の確認を行っている。内1回は消防署員のアドバイスを受けている。地域住民との連携体制もお願いして確認している。自然災害に備え懐中電灯を各居室に備えている。             |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
|                                  |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |   |  |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                    | 居室に入る際はノックをするなど利用者一人ひとりの人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。       | 理念にも人権・尊重の言葉を掲げている。職員へは利用者との会話の言葉遣いや居室入室時のノック、など配慮するように話し合っている。個人記録は事務所で管理し、ミーティングも個人名など配慮しており、職員の守秘義務を周知し誓約書を作成している。              |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 利用者に着たい服を選んでもらったり、耳が不自由な方には、筆談やボディーランゲージで希望を表していただくよう努めている。 |  |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりのペースを大切にし、居室で休息する時間などを設けるなどして支援に努めている。              |  |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | 本人の意向を尊重し(サングラスの着用など)支援している。                                |  |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている      | 利用者の希望をメニューに反映するようになり、調理に参加していただいたり、配膳、片付けなどを一緒に行っている。      | 一週間毎の献立は利用者の嗜好を考慮し作成している。利用者も献立作成に参加したり、おかずの作り方を聞いたりしている。嚥下力に合わせた盛りつけを行い、ミキサー食は食事を楽しむ面から限界まで行わず支援している。時には外食に出かけたり、お弁当を作り出かけたりしている。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている           | 食事摂取量を記録し管理しているまた水分の摂取量が少ない方には気がけて水分を摂取してもらっている。            |  |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                    | 毎食後、口腔ケアの介助、自分のできる方には忘れないように声をかけている。                        |  |                   |

グループホームつつしが丘しのめ

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 利用者一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行い排泄の自立にむけた支援を行っている。   | 利用者毎の排泄チェック表を作成しパターンを確認している。個別に合わせた時間で声かけ誘導しており、失禁軽減につながっている。チェック表を基にトイレ使用に努め、パッド使用の改善につながるよう対策を検討している。      |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | ヨーグルトや牛乳などを摂取していただくなど、また必要に応じ整腸剤を増量したり、適度な運動をしていただくなどして対応している。                        |  |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                             | 同性による介助など利用者の希望や体調に応じた支援をしている。  | 週3回入浴日があり夕方まで時間を設定している。リフト浴のほか入浴補助具を揃えており、全利用者が入浴を楽しめるよう工夫している。車いす利用者の入浴は2人体制で行っており、利用者の希望で同性介助も行われている。      |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 一人ひとりの生活パターンに応じ昼夜逆転しない程度に居室、居間のソファで休んでいる。   |  |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 薬の目的や副作用などについて職員一人ひとりが理解するように努めており、症状の変化があれば看護師、医師に連絡し指示をもらうよう努めている。また市主催の研修にも参加している。 |  |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 一人ひとりの生活歴を活かした役割、嗜好品、楽しみごと気分転換を支援するよう努めている。   |  |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者の希望に応じ外出できるよう、また家族のもとで外泊できるよう家族に働きかけるなど支援している。                                     | 天候や体調に配慮しながら、一対一でホーム周辺の散歩を行ったり、食材の買い出しに出かけたりしている。家族と定期的に外泊する人もおり、季節の花見やピクニックなど企画して全員で外出するなど、戸外で出掛ける支援に努めている。 |                   |

グループホームつつしが丘しのめ

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 原則として現金、通帳などを預かっていない。   |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 支援している。   |  |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 吹き抜けを利用し太陽光を取り入れている、まぶしいときはカーテンをし居心地よく過ごせるよう努めている。カレンダーの絵を毎月換え季節を感じていただけるよう努めている。 | 広々としたリビングは利用者が自由に活動できるように調度類が配置されている。吹き抜けから入る日差しは程よく明るいリビングである。毎朝掃除が行われ、手すりふきは利用者も参加する場合もある。月1度の掃除を行い衛生面に配慮している。           |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 利用者の座る場所を考慮し、気の合った利用者同士で思いおもいに過ごせるよう工夫に努めている。                                     |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 使い慣れた家具、マリア像などを居室に置いてもらい居心地良く暮らせるよう工夫に努めている。                                      | 使い慣れたタンス、テレビ等調度類の持ち込まれている。写真や飾り付けも利用者の目線で行われており、ベッドなどは利用者が行動しやすいように配置換えして工夫している。毎朝掃除を行い、換気や温度管理は各部屋毎に行われており居心地のいい居室となっている。 |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 時間の見当識障害のある方にはのおおまかなスケジュールを壁に貼るにより伝え、また居間、トイレにはてすりをするなどして安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。  |  |                   |